

■**青山士** 土木官僚。パナマ運河開削に唯一の日本人技術者、荒川放水路などの大事業、技術者のモラルも示した。

あおやまあきら

大久保暗殺・1878＝ 静岡県豊田郡中泉村で、江戸時代に庄屋、郷宿をしていた素封家の五男一女の三男に生れ、明治十一年にちなみ、士と名付けられる。

**明治14年政変**1881＝ 3歳：

父は禅に凝って、仕事や家庭を顧みない奇人で、明治維新後の晩年を政治家として人民救済にあたった祖父と、理工科に進んだ兄紀元二の影響を受けて育つ。

国民之友始・1887＝ **9歳**：

初の対等条約1888＝10歳：家が全焼。兄紀元二が第一高等学校に入り、

**帝国憲法発布**1889＝11歳：祖父が東京に家を構え、

大本教・・・1892＝14歳：小学校を卒業して上京、尋常中学校(現在・日比谷高校)に入学、祖父宅に住む。

**日清戦争始**・1894＝16歳：祖父が帰郷し、東京帝国大学電気工学科に進んだ兄と、寄宿舎に入る。

白馬会・・・1896＝**18歳**：

八幡製鉄始・1897＝19歳：第一高等学校予科二部に入学。寮の同室者浅野猶三郎に影響を受け、

Bushidou・・・1899＝21歳：内村鑑三の門をたたいて評価され、クリスチャンと土木技術者への進路を決定づけられ、

大学では、内村鑑三の知友で開明的土木工学者広井勇の教えを受け、

日比谷公園・1903＝25歳：東京帝国大学土木工学科を卒業、恩師の勧めで、パナマ運河開削工事に参加すべく、単身渡米、着工を待って、シアトルでアルバイトをして旅費・滞在費を稼ぎ、ニューヨークへ向かい、日本を支援してくれていたアメリカ土木技術の父・ウィリアム・H・バア教授を訪ねて、紹介を受け、

**日露戦争始**・1904＝26歳：**\*パナマに渡り、**

**日露戦争終**・1905＝**27歳**：日露戦争で兄紀元二が戦死。

以後、7年間、熱帯の地で苦闘しながら、唯一の日本人技術者として、運河開削に携わり、当初は軽く見られたが、次々と昇進し、ついには白人と同列のトップクラスの技術者として評価されるに至った。

韓国併合・・・1910＝32歳：祖父が死去。

大逆事件判決1911＝33歳：8割方完成したところで、突然休暇をとり、辞表を出して、

**明治天皇没**・1912＝34歳：**\*帰国し、無試験で内務省の技師に採用され、氾濫を繰り返していた荒川に放水路を作る大プロジェクトに参加、以後完成まで15年間、測量・設計・施工までを手掛る。**

**第一次大戦始**1914＝**36歳**：各大学の内村門下生のつくる「白雨会」に入り、南原繁らと終生の友となる。

21ヶ条要求・1915＝37歳：機械学会で「パナマ運河工事の話」講演。丹波の大地主の娘土田むつと結婚。最難関の岩淵水門工事主任。

本格政党内閣1918＝40歳：荒川改修事務所主任となり、プロジェクト全体を任される。

**原敬首相暗殺**1921＝43歳：機械学会で「荒川改修工事に就いて」を講演。

**関東大震災**・1923＝**45歳**：震災で荒川放水路一帯が修羅場となり、不眠不休で対応、

護憲三派圧勝1924＝46歳：ついに完成。

金融恐慌・・・1927＝49歳：重症の肺炎にかかり、一時療養後、明治42年に着工されながら失敗続きであった信濃川大河津分水工事を担当する新潟土木出張所長に就任。現場責任者に宮本武之輔を招いて、再着工。

共産党事件・1928＝50歳：恩師広井勇が死去。

海軍軍縮条約1930＝52歳：信仰の師内村鑑三が死去。

**満州事変**・・・1931＝53歳：宮本の獅子奮迅の取り組みで、わずか6年で可動堰が完成した。

五一五事件・1932＝**54歳**：父が死去。長男が誕生。帰京。

帝人疑獄事件1934＝56歳：**\*内務技監に任命され、土木協会会長に就任、**

芥川直木賞始1935＝57歳：土木学会会長に就任するなど、技術官僚として最高点に達したが、

**二二六事件**・1936＝58歳：クリスチャンとしての行動が軍部にマークされ、二・二六事件で内務省が囲まれる。学会の土木技術者の規約調査委員会の長になるが、**\*技術官僚と事務官僚が激突する大事件が起き、責任をとって内務技監を辞任。その後、三菱鉱業顧問や兵庫県、東京市、満州などの嘱託として指導。**

**日中戦争始**・1937＝59歳：中国旅行から帰国後、「世界の大工事と人類文化の発展」をラジオ放送。

第二次大戦始1939＝61歳：「ばなま運河の話」を自費出版。

大政翼賛会・1940＝62歳：長女が渡米、餞別に「内村鑑三全集」、アメリカで結婚し、そのまま定住し、以後日米戦争のため会えず。

**日米開戦**・・・1941＝**63歳**：後継者ともいえた宮本武之輔が死去。

戦局の進捗により、土木事業が顧みられなくなり、また、クリスチャンとして清康潔癖で、権力におもねったり、業者と癒着することも一切なかったため、生活は厳しくなる。

年金+総武装 1944＝66歳：親友浅野猶三郎が死去。

**敗戦**・・・1945＝67歳：空襲で焼け出され疎開、窮乏生活を強いられる。

終戦後も帰るところがなく、恩給だけをたよりに疎開先で暮らす、それも厳しくなり、

極東裁判決・1948＝70歳：郷里の静岡県中泉村に帰る。

三大事件・・・1949＝71歳：台風による荒川水害を受けて、建設省荒川計画高水量検討会が設置され、座長に呼ばれる。

**朝鮮戦争始**・1950＝**72歳**：土木学会名誉会員に推挙される。

**独立回復**・・・1951＝73歳：

生活の足しにと、後輩が静岡県総合開発審議会委員にしたが、それにも律儀に対応。時折、パナマ運河などで取材されるほかは、読書に耽った。

**55年体制始**・1955＝77歳：以降、隠れた偉人・技術者青山士を取り上げる児童図書が相次いで発刊されたが、本人はそんなに偉い物ではないと謙遜しながら、

美智子妃・・・1959＝**81歳**：

TV宇宙中継始1963＝85歳：老衰のため、没した。

山海堂「写真集・青山士/後世への遺産」